

その他の繊維製品製造業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	9	16 ～ 17	織物を加工して防水シートを製造する工場で、防水加工用の樹脂が入っていたコンテナタンク(横112、幅112、深さ119cm)の内部をトルエン(第二種有機溶剤)で清掃中に倒れ、そのまま気を失い中毒死した。	514	12	10 ～ 29
2000	7	16 ～ 17	工場内で小型トラックの荷台に掛ける幌を作製するための型取り作業中に、何らかの虫に左前腕部を刺され、帰宅して就寝中に39度6分位の熱が出たので病院に行ったが死亡した。	719	90	10 ～ 29
2000	2	14 ～ 15	キッチンマットの織機の加工済みマットを送る2本の送りロール(直径約8cm長さ4.6m、ロール間の隙間4cm)の間に巻き込まれた。	163	7	10 ～ 29
2001	3	9 ～ 10	最大荷重950kgのフォークリフトで約270kgの荷を地上約2mの高さまで持ち上げ、トラックの荷台に積み込むため下り坂を後進していたところ、路面が複雑に傾斜していたためフォークリフトがバランスを崩して転倒し、運転者が運転席から投げ出されてヘッドガードの下敷きになった。	222	2	10 ～ 29
2003	2	8 ～ 9	裁断機のカッター部分が布に引っかかり止まったため、トラブルを解消しようと頭を突っ込んだ状態で手前にあるカッターの停止ロープを引き頭を突っ込んだ状態で点検していたところ、上下動する布支持バーが自重により下がり、テーブルと布支持バーの間に頸部をはさまれた。	169	7	50 ～ 99
2004	10	9 ～	強風の影響で破損したテント倉庫の修理に先立ち、破損状況調査および見積り等のために同倉庫の屋根上に上がり調査を行っていたところ、足元のシー	415	1	10 ～

		10	トが裂け、アスファルト敷きの床の上に墜落した。			29
2004	8	10 ～ 11	被災者は、中古衣料梱包機で、中古衣料の圧縮作業に一人で従事していたが、同機械のベルトコンベアーが空荷の際に発する異音を出したことに気づいた同僚が、機械を停止して被災者を探したところ、被災者がホッパー下部のプーリー部分で発見された。	224	7	10 ～ 29
2005	4	11 ～ 12	屋上に散乱している自社の看板の破片等の清掃において、屋上昇降用のはしごを下りる途中で墜落した。	371	1	1 ～ 9
2005	7	10 ～ 11	トラックで高速自動車道を走行中、追越車線に停車していた乗用車に接触し、スピンしたところに後続車が追突した。	231	17	10 ～ 29
2008	2	15 ～ 16	反毛機の運転管理及び反毛の袋詰め作業従事中、反毛機のこぼれ落ちた繊維の吸い込みダクトの詰まりを機械を止めずに除去しようとしたところ、近接のシリンダー（針付ドラム、直径52cm）に巻き込まれて死亡した。	163	7	1 ～ 9
2010	3	10 ～ 11	工場機械室内に設置してあるの冷房加湿器（繊維材料を加湿する設備、幅310、高さ300、奥行210cm）を解体する作業中、脚立などを使用せずに、1.7mの高さにある機械フランジ部と建屋内壁に足を掛けて、無理な体勢でネジを外す工程を行っていた際に、足を滑らせて足を掛けていたフランジに前頭部を打ち、更に床面に後頭部を打ちつけ、頭部強打により死亡した。	391	1	1 ～ 9
2012	2	12 ～ 13	古着の選別作業を行っていた作業者が、梱包機械（上型と下型の間に衣類等が入り、上型と下型がそれぞれ衣類等を押し当て圧縮し、立方体の形に成形するもの）付近からうめき声が聞こえたため駆けつけたところ、当該機械の古着と上型の間に挟まれた被災者を発見した。なお、被災者は、胸より下が圧迫された状態で死亡していた。	164	7	10 ～ 29
2019	2	8 ～ 10	工場2階加工室の南側に位置するスリッターと呼ばれる反物加工機械周辺をほうきとちりとりで清掃していた際に、換気のため開けていた窓から工場の外に墜落し、死亡したもの。	418	1	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。